

第3回

ビジネスの担い手 ものの生産者

執筆・講師 粕谷和生



学習のねらい

生産 → 流通 → 消費の起点である「生産」にスポットライトを当てて、今回は「もの」の生産者、次回は「サービス」の生産者について学習します。ものの生産では、顧客満足度の高い商品を生産することがとても重要となりますが、消費者への配慮も必要です。また、わが国は「ものづくり」が得意な国として有名です。その背景には、長期にわたる新技術や新素材などの研究・開発に地道な努力をしてきた「ものの生産者」がいるからです。

調べておこう・覚えておこう

ものづくり／製造物責任法（PL法）／リニア／製造業／商品

※空欄 を「調べてみよう・覚えておこう」の語句で完成させましょう。

👉 Point ① ものの生産者の役割と種類

ものの生産者は、第一次産業と第二次産業に分類されます。第一次産業とは、自然からもたらされるものを収穫する農業、漁業、林業です。第二次産業とは原材料を加工してものをつくり出す ① や建設業などです。

ものの生産者の役割は、消費者ニーズを満たす製品を製造し、 ② として市場に提供することです。

②は番組出題問題です。

つまり、消費者に「この商品を買ってよかった」と思わせる顧客満足度の高い商品を提供することが重要です。そうすれば、商品は売れて収益が上がり、会社は成長して雇用も増えます。さらに、消費者ニーズに合った新しい商品の開発にも力を注げます。

👉 Point ② ものの生産者のビジネス

ものの生産者のビジネスでは、消費者ニーズを満たす製品をつくるのが最も重要です。しかし同時に、製品の安全性への配慮、環境問題への対応といったことも求められています。

製品の欠陥が原因で被害を受けた消費者を保護する法律として ③ があります。

③は番組出題問題です。

製造物責任法（PL法）では、製品の欠陥が原因で人やものに損害を与えた場合、その製品の製造者が、被害を受けた人に対して損害賠償責任を負うことを定めています。

また、環境に配慮した循環型社会をめざすために、家電リサイクル法など各種のリサイクル法が施行されています。

Point ③ ものの生産者の動向

日本の製造業には、世界に誇る高い技術開発力があり、**④** に優れています。

④は番組出題問題です。

例えば、青色LED、カーナビ、リチウムイオン電池、光ファイバー、胃カメラなどたくさんの世界初の製品が日本で生まれています。コンビニにも売っているインスタントラーメンやレトルトカレー、乾電池、使い捨てカイロも日本生まれの製品です。そのほか、私たちに身近なカラオケや自動改札機も日本生まれです。このような世界初のものをつくり出す高い技術力は、長期にわたり研究・開発を行ってきた日本の「ものの生産者」の努力によるものです。

番組では、開発着手から実用化まで半世紀をはるかに超えるリニア中央新幹線を取り上げます。超電導磁石のしくみやそれを利用したリニアモーター、最高時速はギネス世界記録になっていることを紹介します。映像を見ていると**⑤** 中央新幹線は、走るというより飛んでいるという感じになるかもしれません。

番組の後半では、リニア中央新幹線の開発に携わってきた技術者の方々の話をうかがいます。開発初期の苦労や現在の取り組みの様子がよくわかります。

リニア中央新幹線が開通すれば、人々の仕事の効率は飛躍的に向上します。たとえば、移動に3時間かけて10個分の仕事をしていた人は、リニア中央新幹線によって移動が1時間になれば、30個分の仕事をこなすことができるようになるかもしれません。番組の中でリニア中央新幹線の開通は、日本のビジネスにとって革命となると言っているのは、このためです。

解答欄

- ① _____
- ② _____
- ③ _____
- ④ _____
- ⑤ _____

© 2019 (株) NHK 放送基礎講座 第③回 番組② 番組①：25分